

第 24 回休眠預金等活用審議会ワーキンググループの議論の概要

1. 2024 年度総合評価について

- JANPIA が設定するロジックモデルや評価指標は、国内の社会的インパクト評価の担い手が参照するものになるため、本制度の理念をロジックモデルや評価指標に落とし込んでほしい。
- ロジックモデルを時系列で整理することにより、本事業のインパクトがわかりやすくなり、理解醸成につながるのではないかと。
- JANPIA の web サイトが本事業を知ってほしい層にリーチできているのか等、分析ができると改善につながる点も多いのではないかと。
- 総合評価の作成に当たっては、実行団体の事業によっては定量的指標を用いた評価になじみにくいものもあることを念頭に置いた上で、評価手法等を検討してほしい。

2. ガバナンス・コンプライアンス関係の取組について

- 利益相反事案はあってはならない。資金分配団体全体の信頼を損なうおそれがあることから、しっかりとした対応が必要。
- 他の資金分配団体が実行団体の事業を承継した件の公表に当たっては、事業承継に至った経緯も含めて公表すべき。

3. 活動支援団体について

- 小規模団体の学びや本事業のすそ野の拡大に向けて、活動支援団体の今後の取組に期待したい。

4. その他制度全般について

- 他省庁等の制度・取組の事業に応募している事業の中には、むしろ本制度の趣旨等によりなじむものがある。他省庁との連携に向けて取り組んでほしい。
- 休眠預金の活用状況等と合わせて、預金等の払い戻しが可能である旨も含めた本制度自体の趣旨についても、金融庁と連携し引き続き広報してほしい。